支援ネット会員各位

月例情報市場等　報告

201306

４・５月の月例情報市場のご報告をいたします。今年度もよろしくお願いいたします。

■活動報告　■各種情報　■今後の予定

■活動報告

□5/15 長野市社会福祉協議会と協働で、助成金学習会を開催しました

講師　社会福祉法人信濃の星　　鈴木　雅人　氏

参加者　７団体 12 名

ささえあい応援金は、財源が民間企業・団体からの資金であることから、審査員も企業人が入っています。だから、「誰かが喜ぶ」という思いだけでなく、「数字」とか「適正かどうか」という視点も大切なんですね。

□5/15 情報市場を開催しました

引き続き「情報市場」を行いました。

おはなしの森　小山さん
浅川地区限定で活動しています。保・幼・小のプラザ、認知症の施設等で大きな紙芝居や絵本を読んでいます。３年前、発足時に一度この助成金で活動しました。前回は紙芝居の台は対象とならず、材木で作りました。今、ふるさとの風さんにも教わりながら活動していますが、今度は、マイク等の設備が欲しいです。ワイヤレスのヘッドホン型マイクは、６万円くらいするので。
ボラセン戸田　施設側で準備できるものはないでしょうか?
ふるさとの風　武井　マイクがなくても聞こえる、と大きな声で話される方もいるのですが、声のトーンなどの関係で、実際は聞こえない人もいるんですよね。そういう現実があるんです。だから、活動者側で準備して活動したい。自分たちは自腹で準備して、持ち歩いています。
込山　どうして必要なのか、現状をきちんと説明できるといいんですね。言っていただけると、審査員もわかると思います。

財団法人ＡＦＳ日本協会長野北信支部　支部長髙木
財団法人ＡＦＳ日本協会
http://www.afs.or.jp/
９年ほど毎週火曜日、点訳サークルでボラセンに来ています。今日は、戦後 60 年間続いているボランティア活動の全国組織の支部活動として来ました。
高校生の異文化交流として、交換留学を支援しています。１年間受け入れてくれるホストファミリーと学校を探すのですが、告知が難しく、なかなか受け入れ先が見つからず苦労しています。企業からの助成金がなくなり、手弁当なので、資金的に困難があります。
知らない人が多いと思います。新潟県では、教育委員会が協力しています。
ボラセン戸田　興味ある人の目に触れることが大切では?　ボラセンには、日本語教室の団体も登録しています。また、ボラセンのかわらばんは 6000 部配布しています。お金がなくてもできる広報手段は、まだまだあるかもしれないので、相談してください。
ボラセン阿部　申請のときに、目標とする受け入れ人数など「数字」を「目指す成果」として表現することも大切ではないかと思います。FaceBook やメディアなども利用できるツールです。
ボラセン戸田　長野県が４月から立ち上げた協働コーディネートデスクも、全県なので登録の価値があると思います。
また、資金としては、長野県みらいベースも調べてみてはいかがですか?
http://www.mirai-kikin.or.jp/
副支部長　和田　日本に来た外国の子どもたちの第二のふるさとになるだけでなく、受け入れた家庭も、よい思い出になります。子どものいない家庭でも受け入れを検討していた

だければ。国際平和への一歩です。
ボラセン宮沢　外部への見える化は大切な作業。次回の情報市場でも、公開審査会のプレゼンの練習としてはいかがですか?
込山　プレゼンテーションというのは、「土俵に乗る」「想いをつなげる」場なんです。ちょっと話して、第三者の意見を聞くことで、整理できることもあると思います。また来月も是非お出かけください。

□5/22 総会を開催しました

無事に昨年度決算と今年度予算を承認いただきました。会員の皆様ありがとうございました。また、役員に今井理事が増員となりました。

その後、10 周年記念事業の目的について座談会を開催しました。

支援ネット 10 周年記念事業の目的

〇過去の検証
＋
〇次の 10 年へとつながる、ビジョンの発信
～新しい公共、協働の担い手

未来への意志を示そう!

【過去の検証】
・当時は新しかったが、現在は資金提供になってしまっている。活動を活性化したい。

【現在、社会はどうなっているか】
地域
・行動のイメージがつかめない人々が多いが、それはつまり、きっかけがあれば、動きたい人がたくさんいるということ。
・資金より、アイデア・ノウハウが求められている。
ボラセン
・企業の社会貢献の相談も多い。特に、災害時には「何をしたらよいかわからなかった。声をかけてくれて、ありがとう」と。
企業
・「やってみなきゃわからない」の積み重ねが、礎になる。地元との交流イベントを 20 年間続けてきた。一度休んだが、大きな決断だった。「継続」することは大切。
・ストーリーの掘り起しもしてはどうか。
団体
・商議所、青年会議所、経営協、社協など、多くの団体にかかわっていただいて設立した経過がある。会員から外れたところもあるが、人がつながっていることもある。あらためて声かけをしてはどうか。
・単年度だったりして、うまくつながらないこともある。

↓

協働の社会にむけて、つながるしくみをつくり、
人々の活動のきっかけづくりをサポートすることが求められている。

長野の企業・団体にとって社会貢献が身近になり、より地域に密着した多様なメニューと出会うきっかけができれば、それが支援ネットのかかわりの意義であると思います。

そして、行政・NPO だけではなく、民間企業等の力も生きた協働の社会は、バランスがよい、持続性ある活性化のイメージとなるのではないでしょうか。

今、理事を中心に、10 周年記念事業の企画を練っていますが、会員の皆様からのご提案がありましたら、お気軽に事務局までメールいただければと思います。

■4/17 情報市場を開催しました

参加者は、長野市市民活動公益センター長になられた山室さん。
もんぜんぷら座の「カフェまんまる」を今年度からさらにバージョンアップしたそうです。
コアタイムを３人のコーディネーターが得意分野で企画します。くわしくは、こちら。
http://www.nagano-shimin.net/
情報誌「ぷらっと」は、ボランティアセンター他においています。

活動を継続させるためのしくみと、活動への強い思い。
いずれが欠けても、活動者は走り続けることはできません。
地域で活動する人々を、日々それぞれ違う場所で支えている
コーディネーターたちが、それぞれの立場から、熱く語りあった１時間半でした。

【カフェまんまるについて】

=告知・継続の工夫

・講座に来てくれた人にメールで配信したりしています。
・一人でも実施して、続けることを大切にしています。
・FaceBook を利用しています。

=まんまるの目的は?

個人、NPO、企業、また中間支援をしている組織同士の交流など。

=「情報市場」と「まんまる」は、コンセプトがすごく似てるけど?

・来やすいところに行けばいい。選択肢があるのはいいよね。窓口はたくさんあったほうがいい。
・たまにジョイントできるといいよね。
・テーマを絞るだけでなく、実際、地域で協働プロジェクトもするつもり。そういう場になるといいなと思ってます。企業のイベントもからめると、CSR の実績にもなりますので。

○わかりやすいしくみの大切さ

戸田　災害で、企業の支援活動は広がった。緊急性、「ありがとう」が見えるから。

山室　お金と人は、黙っていては来ない。ちゃんとアピールすることが必要だと思う。

長野市災害ボランティア委員会の鮭Ｔは、成功した。

課題(どうしてするのか)と相手(誰に届けるのか)が明確に見えている。何のためにやっているかわかるというのは、納得できるので、大切なこと。人にも口コミで勧めやすい。あるべき姿と現実、Win-Win の関係の提示を。

例★テーブル・フォー・ツー

社員食堂等で 400 円のうち 20 円を寄付するしくみ。寄付金は、アフリカの飢饉に悩む子どもたちの食糧になる。会社にとっては、CSR の取り組みと健康な社員を増やすというメリットがある。

参考　http://www.shashoku.com/tft/2.html

○地域の中にある、生活課題

戸田　一方、中山間地、貧困、過疎など、日常の課題は、困っていることが漠然としている。感謝されることもないかもしれない。

山室　そもそも、困っていなかったりしている。困っているのは、「草が伸びた」とか。皆がやってきたことができなくなると苦になる。そういうもんだから。

戸田　孤立死、引きこもり、自殺、ニート…課題は山積み。けれど、そこに企業の力が関わっている例が増えている。

中条地区では、包括ケアネットワークが４月に立ち上がった。

先般、宅配便の人が高齢者の異変に気づいた事例があった。不在連絡票をいれると「いつもは連絡があるのに」電話がない。それを不審に思い、区長やケアマネに連絡。

駐在や JA とも連携。孤立死をいかに地域で防ぐか。生きているうちに考えよう、と。

○ボランティアと NPO の違いは?　活動を未来につなげるには?

戸田　活動したい人は増えている。グループを立ち上げている。ニーズがあると立ち上がる。

山室　資金難やメンバー高齢化など、ボランティアグループの課題は共通していることが多い。組織化していないと、すぐにやめてしまうのではないか、と委託を受けられない場合もある。想いだけでは、活動を継続できないと思う。

戸田　けれども、組織化だけが答えではない。大変だから、とあえて NPO 法人化しないところもたくさんある。

全盲の子の学習支援を、３年間市内のいくつかの点字サークルでやり遂げた例もある。

ボランティアグループであっても、責任感もスキルもある。

支援ネット　正社員とパートに例えると、働き方を自分のライフスタイルで選ぶこともできる時代。パートの人がいなければ、業務の隙間、のりしろを埋めてくれる人がいない職場だってあるはず。それぞれがなくてはならない存在なんじゃないのかな。すみわけを認識していればいいんじゃないか。

山室　総会シーズン。決まりと役割分担-規約、口座、役割分担、会計報告-があれば、立派な組織として外に示していい。
戸田　今は、グループでもちゃんと会計をして、総会をしているところも多い。
山室　それならすでに NPO だと思う。

〇協働の社会へ
山室　でも、組織化だけを言いたいのではなくて。組織を背負って来るだけでは、意味がない、ということをわかってほしい。立場を離れ、肩書きのないプロジェクトとなったときに、「足りないところを見せられる関係」になる。そこから、初めて、協働が成り立つんだから。
戸田　たしかに、困難ケースの生活支援も、縦割りではできない。それぞれができることをネットワークで支えている。

=ボランティア・市民活動を継続していく源は、何だと思う?
山室　ベタだけど、「共感」と「感動」。理屈はあとからついてくる。
戸田　ボランティアの醍醐味は、「必要とされている」感、役割。
でも、感動は、教えられるものではない。気づくもの。そこを丁寧にフォローしていく。
社会の中で必要とされていることを伝えていく。
講座で、「社会の中のボランティアの持つ価値と役割」は、企業の方に人気が高かった。

【コーディネーターから、ひとこと】
◎ぷらっと　山室
人、資金を確保したいときには、相談に来てください。
まんまるやイベントにも是非お出かけください。
◎ボラセン　戸田
ボラセンに気軽に来てください。地区ボラセンも増えています。
足元の現場を持っているので、地域の具体的なニーズにつなげていくことができます。
◎支援ネット　込山
月に一度、楽しく情報交流しましょう。

■各種情報(※随時ホームページでも紹介しています)

□長野市ボランティアセンターからお知らせ　TEL：026-227-3707

・ボランティア・市民活動コーディネート力養成講座

６月～12 月まで、全 12 回開催

http://www.vnetnagano.or.jp/h25/co_sch.pdf

・ふれあいまつり参加団体募集！

６月 24 日(金)までに

・第１回　福祉教育・ボランティア学習研究会

６月 14 日(金)　18:30-20:30

・今月のボランティアかわらばん

http://www.vnetnagano.or.jp/kawaraban/kawarabanpdf/kawaraban368.pdf

□長野市市民活動公益センターからお知らせ　TEL：026-223-0051

・６月のカフェまんまる

http://naganoshimin.naganoblog.jp/e1275709.html

・ながのまちづくり活動１０周年フォーラム（仮）

日時：　７月 13 日（土）12：00～16：30

会場：　長野市ＴＯｉＧＯ（トイーゴ）

http://naganoshimin.naganoblog.jp/　詳細は決まり次第 UP されます

■今後の予定

ささえあい応援金　公開審査会　６月 22 日(土)　13:30～　ボランティアセンター

■会員から

・ケーズタウン若里では、各店舗に認知症サポーター講座を受講したスタッフがおり、オレンジ色のブレスレッドをしています。(新井さんより)

■後記

・支援ネットは８月、丸 10 年になります。先輩方のその〈沸騰寸前〉のような情熱は、どうやら枯れることを知らないようです…!　次世代にも、なるべく熱いままつなげていきたい。だからこそ、今年は若い世代の仲間も加わっていただきたいというのが、理事全員の願いです。興味のある方は、お気軽にご連絡ください。

・今回は４月・５月の合併号となりました。皆様は新年度の生活も少し落ち着いてきましたか?　今年もよろしくお願いします。(な)

以上